

SUZUKI・Y 250 改・Yajima special

遥かなる青空の彼方に

日本一周

Vol.08

1978年8月11日～1982年8月17日

遥かなる青空の彼方に 其の捌

<http://p.booklog.jp/book/35559>

著者 : lauriercb4004in1

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/lauriercb4004in1/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/35559>

ブックログのpapier本棚へ入れる

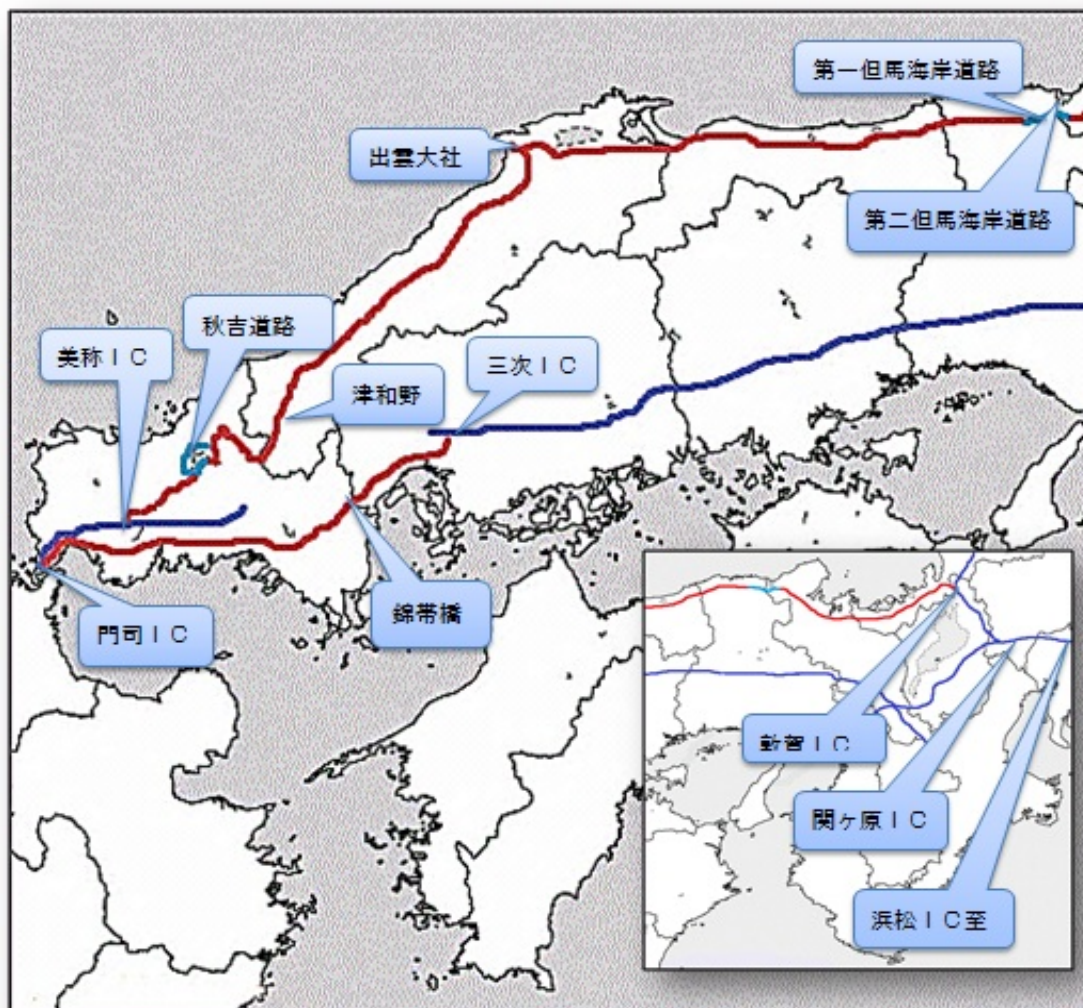
<http://booklog.jp/puboo/book/35559>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.

津和野 編 (1981年4月30~5月2日)

全走行経路



全走行距離 1,934.8km・燃費 不明

1981年 4月30日（木） 曇りのち晴れ

無謀なツーリング計画を立て、3日間で約2,000kmを走る。

AM6:00に一度、起きるが天気は最悪！

天気予報では午後から天気が回復すると言っているので出発時間を延ばす。

AM11:30、晴れまが見えてきた。

CB400・FOURの走行距離32,926.8kmで出発、浜松I・Cから東名高速道路を走り、名神高速道路を経由して中国自動車道路（未完成・三次I・Cまでは通行可能）を給油3回・平均速度120km・7時間で650km走り切る。

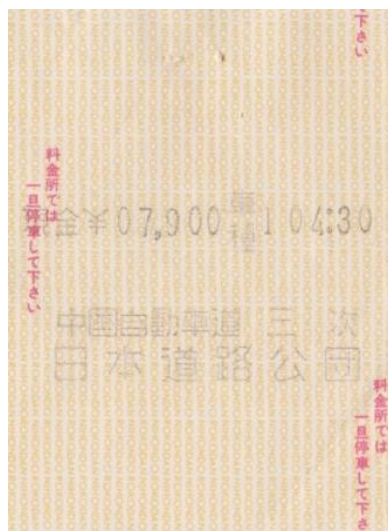
途中の帝釈P・Aで遅い夕食を食べて、一服しているとトラックの運転手が話し掛けて来て広島までの道路の情報を教えてもらう。

トラックの運転手の言う通りに、スピードを控えて走っているとネズミ捕りをやっていた。

中国自動車道路は空いている自動車が前にも後ろも対向車も、ほとんど走っていない。俺、一人が走っている・・・。

中国自動車道路が全線開通していない為、三次I・Cで高速を降りる。

PM7:25、三次I・C到着。



（高速道路の領収書）

国道52でガソリン・スタンドを見つけ、給油してから広島市に向かう。

広島市に向かう国道52は、山間を走る道路で街頭が少なく暗いし、自動車に比べてトラックの交通量が多い、知らない道をオートバイで走るのは精神的に疲れる。

途中、事故渋滞があったが無事に広島市にPM9:20に到着。

広島市に入って、すぐに今夜の宿が見つかり、**ビジネス・ホテル「錦水」**（¥6,000）に泊まる。（さすがに疲れた）



(ホテルの領収書)

給油4回、走行時間11時間！走りパナシ！CB400・FOURの調子はバグン！明日は、津和野まで行く予定。

全走行距離 680 km・燃費 16km/ℓ

5月1日（金） 晴れ

AM6：00、目覚ましで起きる。

雲一つない良い天気、ホテルの窓から原爆ドームが小さく見える。

AM8：00、出発、広島市内は通勤時間と重なってしまい渋滞が凄い。

原爆ドームまで『感』で走ったら迷わずに行けた朝、ホテルの窓から原爆ドームの方角を確認しおいたのが良かったのかなあ！

原爆ドームは朝、早いのに人で混雑しているが、しばらく見学をして原爆ドームをあとにする。



（原爆ドーム）

国道2で錦帯橋(きんたいきょう)に向かう、錦帯橋は橋を歩いて渡るだけでお金を取られるので、橋とオートバイが入る場所で写真を撮る。

ここで、GL1200ゴールドウィング・78型の人も錦帯橋の写真を撮っていて、俺はGL1200の写真を撮らせてもらう。



(78年型・ゴールドウィング)



(錦帯橋)

GL1200の人に別れを言って岩国市に向かう、岩国市を過ぎてから行き先が同じなのかヤマハ・RS250（赤）が付いて来る。

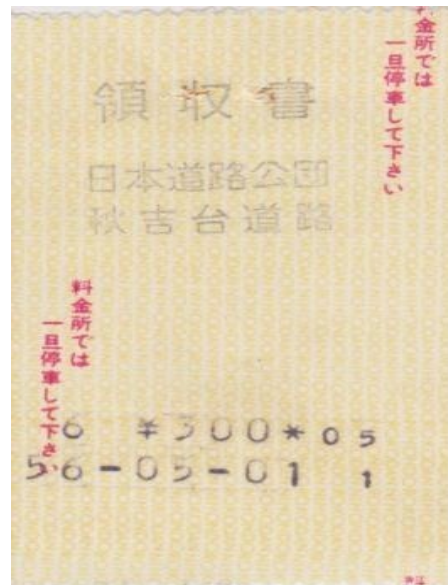
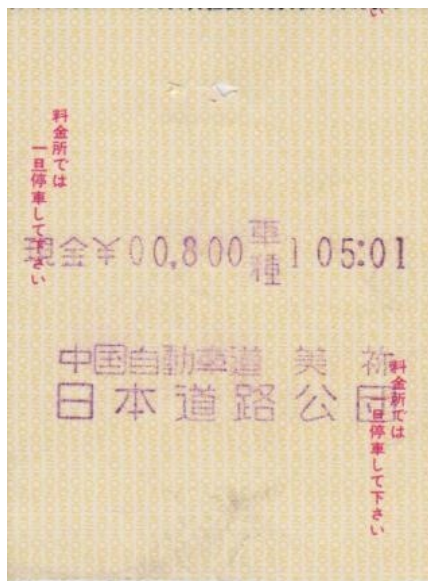
信号待ちで横に並び挨拶するが、無視されヤマハ・RS250と防府市まで走るが、なんとなく陰険な野郎だった。

下関市に入ってから、しばらくすると左側に小さく関門海峡大橋が見えて来た、近づくとつれて橋が段々と大きく成って橋が目の前に来ると、とてつもなく大きい……。関門海峡大橋を見渡せる丘の上まで、オートバイを走らせて写真を撮ってしばらく眺める。



(丘の上から見た関門海峡大橋)

今年の夏は北海道に行くから来年は、この橋の向こう！『九州へ行く』と決意する。関門海峡大橋をあとにして、中国自動車道路・門司港I・C～美称IC（¥800）まで走り、美称I・Cからは秋吉台道路（¥300）を通過して秋吉台[Y1]に向かう。



(高速道路・有料道路の領収書)

秋吉台道路は、有料道路の終点までカラスト大地（石灰岩が地面からむき出しに成っている）が道路の両側に見えて景色の綺麗な道路。

受付で、この時間帯は秋芳洞に入って見学をすると混んでいるから出口まで2時間位は掛かると言われた。

[Y1]秋吉台

【日本最大のカルスト台地（石灰岩などの水に溶解しやすい岩石で構成された大地が雨水、地表水、土壌水、地下水などによって浸食されてできた地形）で400を超える鍾乳洞がある】

【マグロの化石が、伊佐台の石灰石を採掘している採掘場に現れた、洞窟堆積物からゾウやトラの化石と共にマグロの脊椎骨の化石が産出され、海岸から18kmあり古代の人為的な運び込みか、動物による運び込みか、謎である】

【竜宮穴は、洞内に小さな地底湖が異常な湧水が続くと突如として大量の地下水が噴き出すという言い伝えがあり実際、大正11年9月25日に地鳴りを伴って、約2時間にわたって大量の白濁水を噴き出したと記録が残っている】



(秋芳洞まで2 km)

2時間も無駄にすると津和野に着くのが、夜に成ってしまうので諦める。



(秋芳洞の駐車場)

駐車場で休憩をしているとオートバイの後輪に何か光る物をに気付いて、タイヤに刺さっている物を取り出すと『ガラスの破片！』自動車のフロント・ガラスの破片だった。知らないとは恐ろしいもの、ガラスが刺さったまま200 kmも走ってしるし、120 kmのスピードで高速道路も走り高速道路でパンクしていたらと考えただけで恐ろしい、タイヤには穴が空いているが空気は漏れていないので問題なしで秋芳洞をあとにする。

カラスト大地を見ながら秋吉台道路の出口付近のドライブ・インで昼食を食べ、ドライブ・インのおばさんに津和野までの道を教えてもらう。

秋吉台をあとにして、国道376で山口市を目指し国道9（山陰道）を走り津和野を目指す。

国道9を走っていると朱色の大鳥居が見え、鳥居を過ぎて左に行くと津和野の街。



(大鳥居を左に曲がると津和野)

津和野に着いて街の少し流す、小京都と言われるだけの事はある山に囲まれて落ち着いた建て住まい水路には錦鯉が泳いでいる。



(津和野のパフレット)

PM5:20、津和野のユース・ホテルに到着、オートバイが4台・自動車が3台、泊り客20人、小さなユースは混雑・・・。

予約が遅かったので夕食は無し、街まで歩いて夕食を食べに行き、お土産を買って帰ってくる。

全走行距離 383.6 km・燃費 22 km/l

5月2日（土） 雨のち晴れ

朝、起きて外を見れば雨が降っている。

AM6：50、出発。

浜松まで走行距離、約900km頑張るぞ！

出発の時、ユース・ホテルで一緒になったライダー達が見送ってくれた。

津和野の街の中をゆっくり走って雨の津和野の雰囲気を楽しめる。



（津和野カトリック教会と写真を撮る瞬間にオバサンが家から出してきた）

津和野から国道9に出て、日本海を目指す。

国道9を走り、今回のツーリングで初のピース・サインを出す。

益田市に入るまでの国道9は白バイが多い。（ネズミ捕りも1ヶ所やっていた）

益田市から国道9で出雲大社[Y1]に向かい、国道9から国道431を走り出雲大社の大鳥居の前に着いて境内を参拝する。

出雲大社の元の大きさは、現在の大きさより遥かに巨大な建造物だった説がある。

参拝を済ませ写真を撮って、お土産屋を数軒、物色してから駐車場に戻る。

[Y1]出雲大社（イズモタイシャ又はイズモオオヤシロ）

【古代出雲大社の事を書いていた古文書がいくつか残って、出雲大社の高さについて、平安時代・10世紀には三十二丈（約96m）、鎌倉時代・13世紀には十六丈（約48m）、江戸時代

・17世紀には八丈（約24m）。鎌倉時代の十六丈は現代の15階建てのビルディングに匹敵する高さ。】

【10世紀末に記載された口遊(くちずさみ)（学者の教科書）・源為憲(みなもとのためのり)「大屋ヲ踊リルナリ」として『雲太、和二、京三』とある『雲太』は出雲大社、『和三』は東大寺大仏殿、『京三』は京都御所の大極殿の事である。当時、平安時代後期の出雲大社が高さ十五丈（45m）の東大寺大仏殿より大きかった事を伝えている】

【出雲大社は、神社としては珍しく出雲大社教という教団を持っている。その昔、御師(おし)と呼ばれる人たちがいて、それぞれの神社の信仰を全国に広め、熊野三山の御師(おし)、伊勢神宮、稲荷、石清水の御師(おし)、富士講の御師(おし)などが有名。出雲大社の御師(おし)も戦国時代から活発に布教を行っていた】



(出雲大社)

出雲大社をあとにして、国道9で宍道湖に向かう。

宍道湖は広い湖の端から端まで20kmこれが湖と言うから凄い！宍道湖に沈む夕日がとても綺麗だと聞いた事がある。

宍道湖を通り過ぎて、国道9で鳥取砂丘へ向かい鳥取市が近づいてからは、だいぶ交通量が増えて来た。

国道9から県道265（山陰道）に入り鳥取砂丘に着くと雨が止んできた。



(鳥取砂丘の入り口の駐車場)

駐車場にオートバイを停めて写真を撮り砂丘に一步を踏み出し、記念の足跡を残してオートバイに戻ると、さっきまで止んでいた雨がまた降り出す。(また、雨雲と追いかっこ・・・)

まだ、浜松まで半分の距離も走っていない。急がないと！

鳥取砂丘をあとにして、県道265(山陰道)を走り国道178で豊岡市に向かい、国道312で天橋立に向かう。

天の橋立に着いたのがPM5:05頃、夕方に近づいて観光客の数が減って、ここでの渋滞は避けられそうだ。

まだまだ、距離がある、[第一但馬海岸道路\(¥150\)](#)・[第二但馬海岸道路\(¥150\)](#)は連続コーナーが続く、オートバイには良い場所だ。



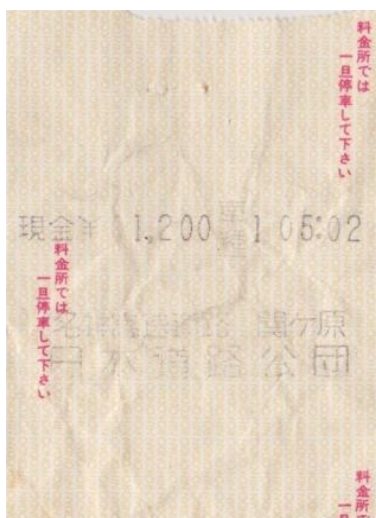
(有料道路の領収書)

コーナーが多いせいか、ゆっくり走る自動車が多くなり、渋滞にハマって有料道路を抜けるのに約1時間も掛かってしまった。

北陸自動車道・敦賀ICに着いたのがPM10:00過ぎていた。

高速道路に乗る前にガソリンを給油しておくべきだった、関ヶ原I・Cの手前で予備タ

ンになり関ヶ原 I・C で国道に降りてガソリンを給油し、再び関ヶ原 I・C から名神高速道路に乗り浜松 I・C まで残り約 210 km を走り出す。



(高速道路の領収書)

名神高速道路から東名高速道路に合流してから、急に自動車の数が増えて所々で渋滞にハマってしまった。

AM0:27、浜松 I・C 到着と同時に腕時計が止まる、渋滞で予定より 3 時間遅れの到着。

AM0:40、家に着いた疲れた・・・。

全走行距離 871.2 km・燃費 20 km/l~26 km/l